

第1回 武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会議事録

日 時：平成27年8月19日 10時～11時30分

場 所：4階会議室

出 席：武雄市まち・ひと・しごと創生推進懇話会委員（欠席 上野淑子、江越公博）
市長（挨拶、辞令交付後退席）、中野企画財政部長
企画課（古賀課長、松尾係長、松尾）

【市長挨拶】

- ・1人1人が幸せを実感して暮らすためには、所得の向上、安全・安心、生きがい、交流（地域とのつながり）、誇りが大事であり、それぞれの総和が幸せへとつながる。
- ・総合戦略策定にもぜひ皆さんのご意見を伺いたい。

【太田氏（連合佐賀南部地域協議会）】

- ・基本目標である新規雇用創出数300人とあるが、過去5年間の採用の状況はどうなっているのか。数字の根拠がないと、つながりが見えにくい。
- ⇒【事務局】整理して、提示する。

【横尾氏（佐賀新聞）】

- ・色々な施策の総合力が総合戦略だと考える。
- ・武雄らしさは基本目標4と基本目標5である。
- ・武雄市は農業と観光のまちであり、農業と観光には親和性がある。
- ・里山活用や、体験型ツーリズムは良い試みであり、頑張って武雄らしさを出してほしい。

【五十嵐氏（佐賀大学）】

- ・人口ビジョンに高齢化率の推移をつけてほしい。
- ・積極的な雇用は必要だと思うが、武雄市としてどういう企業を誘致したいのかプランはあるのか。例えばIT系、情報系、バイオ系等。戦略が弱いように感じる。
- ・若者を武雄市に取り込むためには、質の高い労働が必要となってくる。

【大澤氏（武雄公共職業安定所）】

- ・雇用の安定を図ることができるような企業誘致が地域の活性化につながる
- ・「地域雇用創造事業」はまち・ひと・しごとに利用できる施策であり、ぜひ、佐賀労働局を活用いただきたい。

【五十嵐（佐賀大学）】

- ・合計特殊出生率の高いまちは2世代、3世代の同居が多い。佐賀県では唐津市、玄海町、伊万里市の出生率が高い。今後、多世代同居の増加は見込めないため、地域での子供のサポートが必要。
- ・男性の育児休暇も大切である。

【太田氏（連合佐賀南部地域連絡協議会）】

- ・賃金だけではなく、仕事の働き方を考えてもらいたい。
- ・地域でどう子育てを担っていくかもカギ。

【中村氏（市民団体）】

- ・「まちづくりはひとづくり」という言葉もあり、人材育成を施策に入れて欲しい。

【梶川氏（武雄商工会議所）】

- ・懇話会なのでお茶とお菓子があった方がよい。また、懇話会の所要時間や開催頻度、懇話会の進め方等を説明してほしい。

【江口氏（武雄市観光協会）】

- ・専門的技術者の育成、強みのある産業を生み出すことが必要と考える。
- ・農業では食料自給率をあげ、域内で生産消費される地産地消が大事。

【松田氏（代表区長）】

- ・他の町と比較すると武雄は安全・安心と感じる。
- ・まちそのものを宣伝していくことも大事。

【梶川氏（武雄商工会議所）】

- ・観光に力を入れてはどうか。働き口も期待できるのではないか。観光を中心としたまちづくりは、おもてなしにもつながる。

【五十嵐氏（佐賀大学）】

- ・総合戦略の中での順位づけが必要ではないか。

【太田氏（連合佐賀南部地域連絡協議会）】

- ・交付税の取り合いになっているのではないか。県はどう考えるか。

【大草氏（佐賀県庁）】

- ・地域の人がやりがいをもった視点でやることが大事であり、県としても積極的に関わっていききたい。

【松尾氏（武雄青年会議所）】

- ・武雄市はこれだという柱があった方がいいのではないか。
- ・総合戦略の事業はそ総合的な政策となっているが、5年という短期間であれば1つに絞った方がいいのではないか。

【梶川氏（武雄商工会議所）】

- ・松尾氏に賛成であり、5つの目標ではなく、柱を上げた方がいい。
- ・女性という言葉を入れてほしい。
- ・総合戦略にはイラストも入れ、読みやすいものにしていただきたい。

【横尾氏（佐賀新聞）】

- ・武雄市は行政主導の派閥のまち。一体感をもった人を育てることが必要ではないか。一体感の醸成作りが人を育て、まちを育てるのではないか。

【五十嵐氏（佐賀大学）】

- ・高齢者だけでなく、大人が学べる機会も大事である。つまり現役世代が学ぶ機会。
- ・生涯学び続けられ、地域に還元される施策が必要である。
- ・パブリックコメントはするのか？
⇒【事務局】意見としていただく。